

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500491		
法人名	医療法人 牧山医院		
事業所名	グループホーム ライフ		
所在地	〒856-0807 長崎県大村市宮小路2丁目1408番地 (電話) 0957-55-7839		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年1月16日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,000~28,000 円	その他の経費(月額)	13,000円・実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.7 歳	最低	84 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 牧山医院・医療法人 中澤医院・井上歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院に併設したホームで、本人や家族の医療面に対する安心と期待を職員が自覚し、サービスの提供に努められている。ホーム内に堅苦しい雰囲気はなく、入居者を主として職員は[寄り添い][見守り]に努められている。民家改造型に居室部分を増設した細長い環境ではあるがリビングや居室、廊下に隣接した広いウッドデッキは、外気浴や憩いの場として、洗濯物干しなどの生活活動の場としてなど広範囲に亘った利用が可能である。今年は、入居者の個性をサービスの提供に活かされ、毎日の外出支援が少しでも地域の方々と接する機会作りになるよう希望を持って取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成されており、理念の見直しと運営推進会議への市の職員の参加依頼は実践し、取り組まれている。現在、苦情相談窓口第三者機関を増設することと病院への通用口のセンサー(チャイム)に関しては、打診・検討中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりに自己評価票を作成してもらい、管理者がまとめられている。管理者はまとめの作業を通して[職員一人ひとりの考え方、介護姿勢の把握につながり、今後に活かしていける]ことを感じられている。職員にとっては[項目の捉え方が難しい]という感想を持たれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年の4月に市の職員に参加依頼され、新しい出席メンバーで2ヶ月に1回開催されている。内容的には行事案内と報告を中心に会議進行されているが、時には地域住民を対象とした在宅介護の啓蒙活動として[在宅介護について]の学習会も取り入れられている。又、防災・消防訓練については参加メンバーから建設的な意見やアイデアが積極的に出され、意識の高さがサービスの向上に反映されている。毎回、会議終了時には出席メンバーの経験を踏まえた雑談で終結しており、会議を通じた地域交流にも波及している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	介護相談員制度を導入されており、定期的に受ける報告を業務やサービスの向上に活かされている。尚、苦情・相談やヒヤリ・ハットの記録用紙の準備はされているが、家族からの気づきや相談等、口頭で伝えられたことを取り上げて記録するまでに至っておらず、申し送り事項として一過性の取り扱いで終わっている。今後は、家族・本人の伝えにくい心境に応えるためにも、意識した取り組みとして苦情・相談やヒヤリ・ハット報告書に記録され、全職員で検討し、結果報告までの一連の流れを実践されることが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームの特徴を理解した特例扱いで自治会加入を認めていただかれており、役員などの回避を除けば回覧物や行事の案内・参加などは地域住民と同等の扱いである。入居者または職員がかかわれる範囲で参加・交流されている。

特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年4月に理事長以下全職員で理念の見直しをされ、【診療所併設という安心感の中で、ゆったり、楽しく、自分らしく、地域の一員として共同生活を送る】が新たな理念として誕生し、共用の場や事務所の目に付くところに額に入れて掲げられている		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿って業務をされていない場合があることを自己評価されており、業務に対する厳格な姿勢が窺える。	○	大きな目標達成に向けた小さな指針を設けられ、ステップアップしながら理念の実践を目指されることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの特徴を理解した特例扱いで自治会加入を認めていただかれおり、役員などの回避を除けば回覧物や行事の案内・参加などは地域住民と同等の扱いである。入居者または職員がかかわれる範囲で参加・交流されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員一人ひとりに自己評価票を作成してもらい、管理者がまとめられている。管理者がまとめの作業を通して【職員一人ひとりの考え方、介護姿勢の把握につながり、今後の業務に活かしていける】ことを感じられている。職員にとっては【項目の捉え方が難しい】という感想を持たれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の4月に市の職員に参加依頼され、新しい出席メンバーで2ヶ月に1回開催されている。内容的には行事案内と報告等を中心に会議を進行されているが、時には地域住民を対象とした在宅介護の啓蒙活動として【在宅介護について】の学習会も取り入れられている。又、防災・消防訓練については、参加メンバーから建設的な意見やアイデアが積極的に出され意識の高さがサービスの向上に反映されている。毎回、会議終了時には出席メンバーの経験を踏まえた雑談で終結しており、会議を通じた地域交流にも波及している。		

グループホーム ライフ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所更新が近づいてきたので事務手続き等でわからないことを尋ねたり、ホーム行事に市の資源などが適用されないかなど、直面した課題の相談を中心にかかわりを持たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	殆どの家族は、最低月に1回は面会に来られ、本人と一緒に外出や外食を楽しまれたり、ホームで他の入居者と一緒に寛いだ時間を過ごすなど、本人との接触を通して様子や変化を感じてもらったり、職員からは生活ぶりや健康状態など家族の気がかりなことを把握した報告がされている。職員の異動については、ライフ新聞の紙面で報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員制度を導入されており、定期的に受けられる報告を業務やサービスの向上に活かされている。尚、苦情・相談やヒヤリ・ハットの記録用紙の準備はされているが、家族等からの気づきや相談等口頭で伝えられたことを取り上げて記録するまでに至っておらず、申し送り事項として一過性の取り扱いに終わっている。	○	家族や本人の伝えにくい心境に応えるためにも、意識した取り組みとして苦情・相談やヒヤリ・ハット報告書に記録され、全職員で検討し、結果報告までの一連の流れを実践されることが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	不定期ではあるが法人内の職員異動があり、今年1名の異動があった。法人内の行事等を通して、入居者との接触の機会作りをされているので、顔馴染みの環境づくりをされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部研修受講の他に法人内研修を概ね年に3回開催されている。早速、21年2月に教育委員であるグループホーム職員が【身体拘束について】の勉強会を開催する予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、大村市のグループホーム協議会の会合が開催されている。管理者やケアマネジャーなどの部会組織制で構成されており、研修部主催でホーム間の1日体験として相互訪問の取り組みをされている。		

グループホーム ライフ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入居の場合は、退院前に回数、時間をかけてホーム生活を体験していただく仕組みがある。又、併設のデイサービスを利用してから入居されることもあるが、家族と相談しながら本人の安心につながるような配慮・工夫に努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性職員が調理担当の時は、入居者が本領発揮して切り方や味付けなどの指導実践に当たられており、学びや協働の場面作りになっている。又、洗濯物を干す前のひと手間として、衣類をたたんで『パンパン』と叩く動作も入居者から学ばれており、入居者に叩いてもらって職員が干すという一連の作業を通して洗濯物干しを協働されている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや観察を通して【何をしたい】のかを察知・推測して、本人の意向を確認又は、受け入れて実践につながられている。まずは、入居者の言動があって、それに呼応した職員の言動が続くなど職員の黒子に徹した控えめな姿勢は、入居者の感情や意向等の表出に反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回、入居者担当職員から入居者との関わりを通じた主な気づき等が報告され、全職員で話し合い、その中で出された意見やアイデアなども介護計画に反映されており、本人本位の介護計画の作成に努められている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的または、変化時の随時の見直しはされているが、計画内容の明確化、細分化など個別性につながる計画作成に不足感があるのは否めない。ケース記録に実践記録はされているが本人の様子や職員の対応、モニタリングなど介護計画を意識した日々の記録にまでは至っていない。	○	入居者の現状に即した介護計画作成につながる見直しが行われるためにも、日々のケース記録は本人の最大の情報源である。誰が見ても入居者の生活の様子や状態、介護計画提供経過がわかる活きたケース記録が望まれる。

グループホーム ライフ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お墓参りや寺参りなど家族の都合で同行できない入居者の特別な外出等に職員が同行支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3人の入居者には、これまでの継続したかかりつけ医の受診支援もされており、協力医とは医師間で医療連携体制作りがされている。又、週1回の往診に備えて、1週間の状態報告書を作成されており、1週間の状態や医師の往診所見、経過など適切な医療受診につながる情報提供の取り組みもされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針をホームに適応したものに作成する準備をされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物などの取り扱いは慎重にされており、特定の場所に管理保管されている。入居者との関わりの中で、サービス提供前の説明や意思確認の不足が垣間見られ、入居者の不安や不機嫌を誘発させていることもある。	○	関係が長くなると当たり前のように思えたり、遠慮がなくなったりしがちである。定期的に、認知症や認知症対応、接遇マナーについて反復学習する機会を設けられることが望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在、力を入れられていることは入居者一人ひとりが希望することに割ける時間を提供できることである。取り組みの一例に、全入居者個別の毎日の外出の実践を挙げられている。		

グループホーム ライフ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に応じた食卓・配膳の準備で、入居者・職員がテーブルを囲み、会話を楽しみながら舌鼓をうたれている。職員はなるべく手を出さずに、必要時の声かけや場所換えて入居者の自力摂取を見守り支援されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の午後からの買い物のため、基本的に午前中の入浴支援を取り入れられている。入浴剤を入れて気分転換の支援はされている。また、実質的な取り組みとして、大村市の温泉施設の利用も検討されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりに合った役割や楽しみを見出した支援をされている。外出から帰られた入居者に「おかえりなさい」の職員の声が出迎えて、入居者の嬉しそうな顔が通りすがりの挨拶から伺えた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今年は、外出の機会作りに力を注がれており、買い物や洗濯物干しなど外気に触れる場面作りで支援されている。訪問した日の帰り際の挨拶に応じて、外まで見送りをされたい入居者の意向を聞き入れて支援され、入居者の満足した笑顔と「また、来てね。気をつけてね」の言葉が温かく身にしみた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関への施錠はされておらず、チャイム音で出入りを察知できる仕組みである。民家改造型のホームなので、日中殆ど入居者が過ぐすりピングからは玄関や増築の居室、トイレは死角になっており、職員にとって入居者の居場所の把握・確認は重要である。又、チャイム音もファミリーレストラン風の柔和なものに配慮されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては、ホーム側と地域住民の緻密な話し合いや訓練など熱心に取り組みをされており、地域と一体化した災害対策の体制基盤作りが訓練や反省会をきっかけに具体化されている。		

グループホーム ライフ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食事を通した水分摂取にも配慮した献立で、食事提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型のホームのため、旧館のリビングや廊下は手狭であるが、椅子やテーブル、ソファの配置は入居者の動線にもなっており、伝い歩きなどで入居者の移動の自立にも活かされている。旧館は日本家屋の特徴が強く、家庭的な雰囲気や和みや生活感があり、新館は居室中心の環境で、明るく気品が漂う廊下の踊り場は、時間を忘れてゆったりとした時間が過ごせる場所となっている。両極端ではあるが、どちらも人の気配を感じながら集いや独り居が選べ、訪問した日の廊下を行き交う入居者の姿が躍動的である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の心身の状態を反映して家具、調度品が配置され、持ち込み品からも趣味や好み等を窺い知ることができ、家族写真や使い慣れた生活用品を傍に置くことで本人に安らぎ感を提供している。		